

「協働のまちづくりに関するアンケート調査」

「各種セミナー・職員研修会参加者アンケート」

分析結果

目 次

第1章 各種アンケート内容

各種アンケート内容	p 3
1. 協働のまちづくりに関するアンケート調査【抜粋】	p 5
2. 令和元年度地域力向上スクール参加者アンケート【抜粋】	p 8
3. 令和2年度地域力向上スクール参加者アンケート【抜粋】	p 8
4. 誰もがくらしやすいまちづくりセミナー 参加者アンケート【抜粋】	p 9
5. 協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会 参加者アンケート 【抜粋】	p 10

第2章 アンケート分析結果

アンケート分析結果	p 13
1. 協働のまちづくりへの理解度	p 14
2. 多様なまちづくり活動への参加の入り口	p 15
3. 話し合い・出会いの場づくり	p 16
4. 知る機会・気づき・共感	p 17
5. 学びの場	p 18
6. つながり	p 19

第1章 各種アンケート内容

各種アンケート内容

各種アンケート内容については、以下の事業のアンケート調査から抜粋した内容を掲載しています。

1. 協働のまちづくりに関するアンケート調査

総回答数315人

○郵送

平成31年1月18日発送 1月31日回答期限

対象：市民活動団体135 民生委員児童委員・青少年相談員127、事業者96

○WEB

内容：「市民向け」と「事業者向け」の設問を用意

期間：3月8日から4月30日まで

周知方法

- ・平成31年3月15日 広報やちまた記事掲載
- ・八街商工会議所ニュース3月号に掲載
- ・3月13日回覧により周知
- ・やちまたメール配信サービスによる周知

2. 令和元年度地域力向上スクール参加者アンケート

全5回 令和2年1月25日(土) 2月1日(土) 2月15日(土)
2月22日(土) 3月7日(土)

延べ参加者数：85人

講師：ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 代表 牧野 昌子 氏

第1回：参加者14人

地域力向上のキーマン「地域コーディネーター」の必要性と役割

登壇者：とみさと市民活動サポートセンター

コーディネーター 平野 希 氏 飛ヶ谷 祐示子 氏

第2回：参加者17人

チラシづくりのコツと会議をまとめるテクニック

第3回：参加者19人

地域で活躍している人とディスカッション

登壇者・八街北地区社会福祉協議会 高梨 孝雄 氏

・民生委員児童委員 原 月美 氏

・八街東みらい塾 宮内 太一 氏

・生活クラブ風の村八街 特養ホーム八街施設長 村井 香織 氏

第4回：参加者17人

地域で活躍している人とディスカッション

- 登壇者・六区区長 吉野 輝美 氏
・八街市社会福祉協議会 尾形 淳五 氏
・特定非営利活動法人セブンエイチ 沖山 陽子 氏

第5回：参加者18人

地域を活かす企画書づくり

- 3グループ ・パラリンピック採火式企画提案 1グループ
・やちまたふくしフェスタ企画提案 2グループ

3. 令和2年度地域力向上スクール参加者アンケート

全1回 令和2年8月29日(土)

参加者数：16人

講師：市民部市民協働推進課 主任主事 石渡 正格

- ・ホームルーム 前回の講座の振り返り
- ・交流会 (受講者同士で活動内容を共有)
- ・グループワーク (テーマ「ネットワークづくり」)

4. 誰もがぐらしやすいまちづくりセミナー 参加者アンケート

主催：八街市、八街市社会福祉協議会

日時：平成31年3月16日(土)13:30～16:30

場所：総合保健福祉センター 3階 大会議室

参加者：72人

登壇者

クロストーク 千葉大学 教授 関谷 昇 氏

順天堂大学 前任准教授 松山 毅 氏

ファシリテーター 長谷川 正幸氏

実践発表 ①六区地区社会福祉協議会 会長 鯨井 源一 氏

②医療法人社団誠和会長谷川病院 副院長 菊池 はじめ 氏

③mama no wa 代表 渡辺 史歩 氏

5. 協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会 参加者アンケート

日時：令和元年7月17日、24日、25日

10:00～ 14:00～ (90分) 全6回

場所：総合保健福祉センター 3階 大会議室

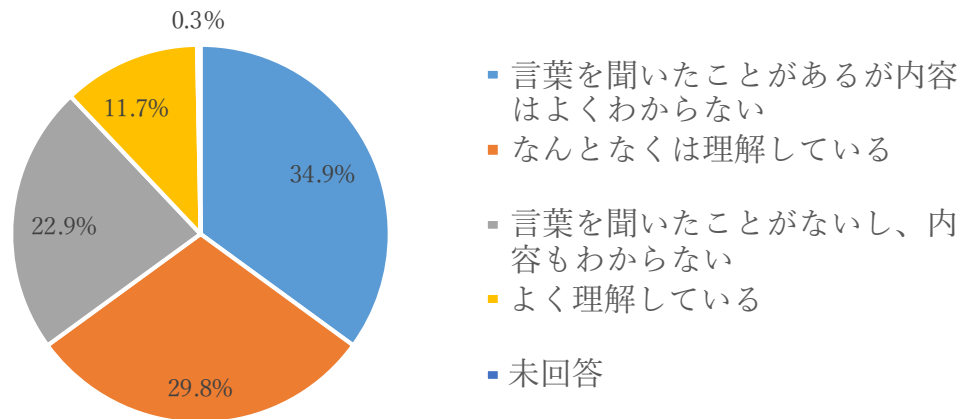
参加者：406人 (職員総数572人約7割受講)

講師：市民協働推進課 主査 齋藤淳一 主任主事 石渡正格

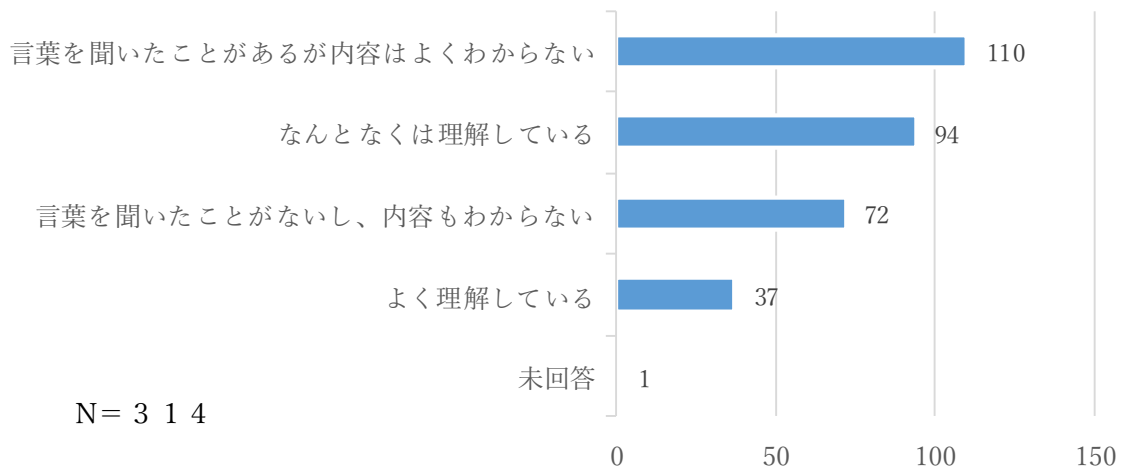
内容：協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会

1. 協働のまちづくりに関するアンケート調査【抜粋】

「協働のまちづくり」についてどのくらい理解していますか。

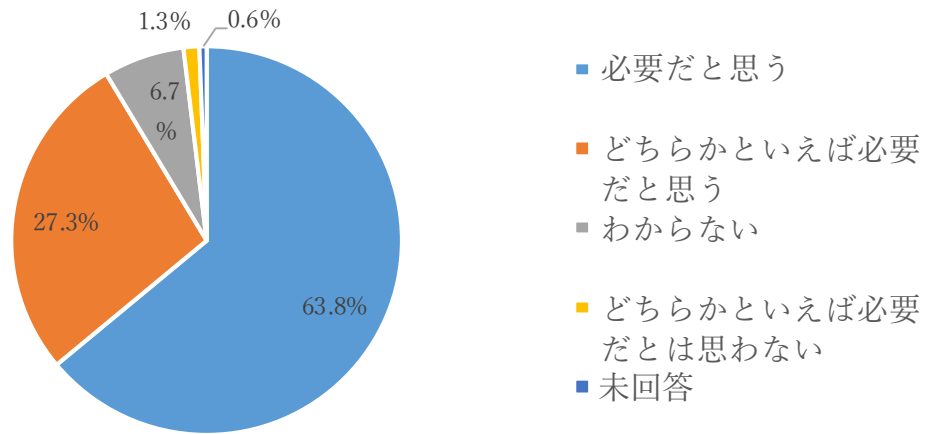


「協働のまちづくり」についてどのくらい理解していますか。

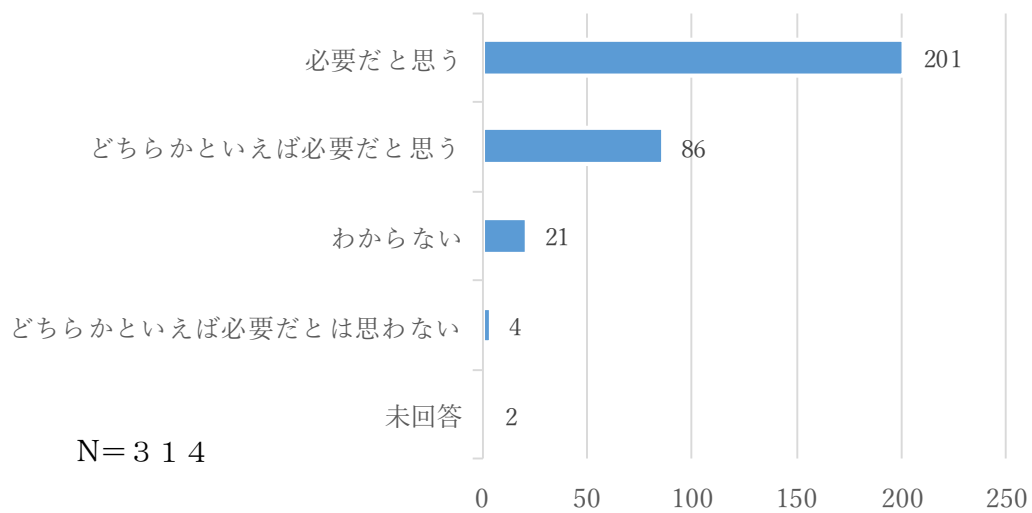


出典：協働のまちづくりに関するアンケート調査

八街市が協働のまちづくりを推進していくことについてどう思いますか。

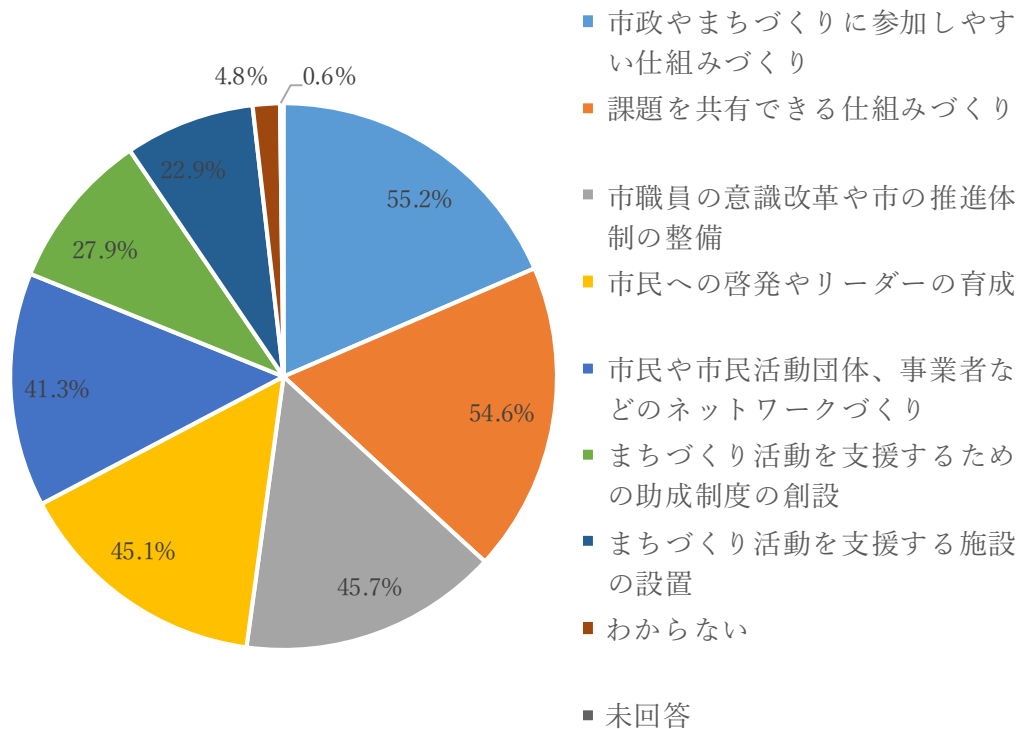


八街市が協働のまちづくりを推進していくことについてどう思いますか。

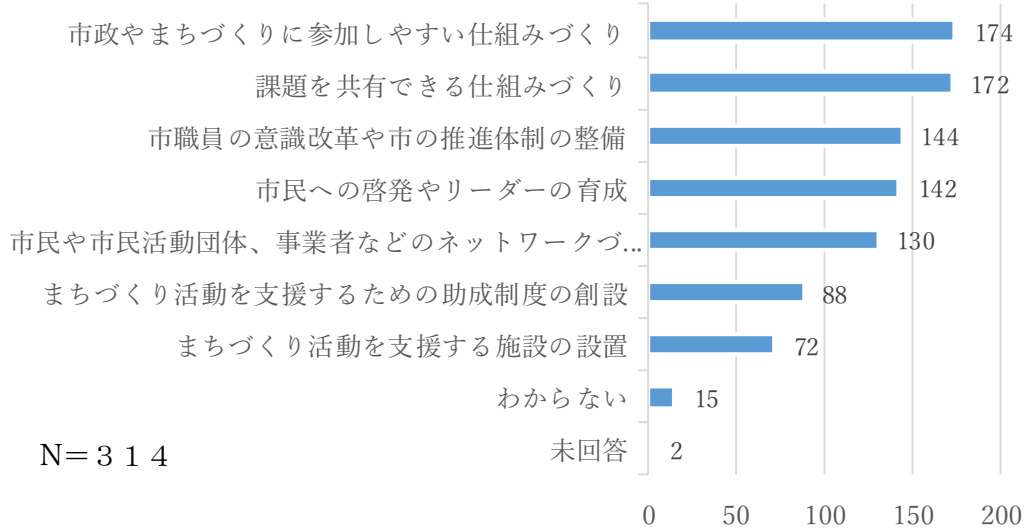


出典：協働のまちづくりに関するアンケート調査

協働のまちづくりを推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）



協働のまちづくりを推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）



出典：協働のまちづくりに関するアンケート調査

2. 令和元年度地域力向上スクール参加者アンケート【抜粋】

自由記述欄【抜粋】

高齢化の今、地域内のコミュニティがもっと必要ではと思っています。
ネットワークづくりは参加したい人が少なくてもやるべきです。担い手を継続的に養成していくべきです。
八街市の活性化になるものをもっと掘り下げて勉強したいと思いました。
グループワークをすると共感の場づくりになりました。
横のつながりについて何か情報があれば参考にしたい。
地域活動を勉強したいと思います。

3. 令和2年度地域力向上スクール参加者アンケート【抜粋】

Q 今後、どのような内容であれば参加したいと思いますか。(複数回答可)

回答数15人

	選 択 項 目	回答数	回答率
1	地域の課題についての勉強会	13	86.7%
2	地域で活躍している人との交流会	11	73.3%
3	地域活性化に関する事業の企画立案	9	60.0%
4	地域で活躍している人の事例発表	5	33.3%
5	コーディネーターのスキルアップ講座	4	26.7%

自由記述欄【抜粋】

「地域の課題」を皆さんはどのように掘り起こしていますか？
若年世代の意見がとても参考になった。今後も若年世代が参加できる工夫と努力をしていただきたい。
子ども目線、若年目線が今後のまちづくりの生命線！
それぞれの課題（福祉、子育て、環境、防災）などについての勉強会を数多く行いたい。
地域の交流や情報発信（SNSやYouTube）をもっと活発に利用した方がよいと感じました。

4. 誰もがくらしやすいまちづくりセミナー 参加者アンケート【抜粋】

市民参加とは、まずひとり一人の暮らしや願いを知ることからスタートせねば。
円卓会議等で様々な方が協議することで、地域の具体的なサポーターを見つけていくことが大切であることを感じました。
人口減少、高齢化時代、コミュニケーションづくりを促進していきたい。
今の現況はどのような社会環境になっているかを知ること（理論の武装）はとても大切だと思います。
地域のボス捜しも大切かと。
地域の話し合いの場を創る。ニーズをつかむ。
くらしやすいまちづくりのためには、住民ひとり一人の意識が必要だと思います。
横のつながりを早めにつくることは（幼少期からつくること）とても良いことだと思います。そのつながりはずっと続いていくし、その必要があります。地元でつながれたらもっと良いと思います。
つながりづくりは地域の支える人材不足を地域に眠っている財産（人、知恵、情報、etc・・・）を引き出すことか。
面白かった。発表者がいきいきしていて、活動も楽しそうで参加してみたいと思った。いままで知らない活動（市内の地域活動）ばかりでした。知る機会があるのは大事ですね。
話し合う場が良かった。初めての人と知ることができた。
ミニワークで話し合う機会が持てたことは貴重な機会でした。
セミナー後に話し合いができたことは充実感がありました。
ミニワークの時間をもっと長くしてほしい。
時間に縛られないで討論がしたい。

5. 協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会参加者アンケート 【抜粋】

Q1. 研修に参加して「協働」の理解が深まりましたか。

	全体	351	
1	理解が深まった	298	84.9%
2	わからない	42	12.0%
3	理解が深まらなかった	9	2.6%
4	未回答	2	0.6%

Q2. 研修の内容についてどのくらい知っていましたか。

(1) 協働のまちづくりに関する考え方について

	全体	351	
1	ほとんど知っていた	27	7.7%
2	少し知っていた	196	55.8%
3	ほとんど知らなかった	110	31.3%
4	全く知らなかった	16	4.6%
5	未回答	2	0.6%

自由記述意見【抜粋】

まちづくりという言葉を知ると、いわゆる公助の部分を考えてしまいがちでしたが、市民や地域の活動があるモノであることを意識することができました。市民と地域からの視点を持つことを心がけたいと思います。
担当業務においても少しずつ、市民団体の方と話し合う機会がありますが、どうしても行政がやるべきという話になってしまい、共助の理解が得られません。
協働のまちづくりの考え方が市民に広がっていけば、市が抱える課題の解消にもつながり、よりよいまちづくりが推進できるのだらうと思いました。職員としてその一端を担えるように努めたいと思いました。
困ったときは、行政が助けてくれる。何とかしてくれる。という意識が強いと感じている。これは区の加入率が低いことにも現れている。実際、こうした市民の意識をどのように変えていくのか悩ましい問題である。
職員を積極的に情報共有の場に参加させてはどうか。
これまで「協働」という単語は、行政の手が回らなくなった事業を住民に助けてもらっている（極端に言えば手伝わせている）という印象が先行していたが、地域の事業を行政が支援することも「協働」だと学び勉強になった。協働を推進するのは大いに賛成なので、新しいことに対しても過剰な拒否反応を示す行政の空気を変えていかなければならないと思う。

<p>協働を実施するにあたり、市職員が市民の側に出向くことが重要であると考えます。市民とのふれあい、対話する中で新しい発想、そして、相互理解が深まると思います。もっともっと市民との対話を大切にすよう促してください。</p>
<p>非常にわかりやすい内容の研修であり、大変勉強になりました。すべての分野で協働のまちづくりを進めていく必要があるので、すべての職員が認識する必要があると感じた。それと同時に、市民、市民活動団体、事業者に対しても協働のまちづくりの認識を高めていく必要があり、自助、共助、公助の考え方を理解して連携していくことが大事であると思いました。</p>
<p>地域自治活動やイベント等知らなかったことがたくさんあり、いろいろな活動やイベントを知るよい機会となりました。</p>
<p>「協働のまちづくり」は漠然としか知らなかったので具体的な活動内容を知ることができて良かったと思う。できる範囲で、できることから少しずつはじめてみたいと感じた。</p>
<p>協働のまちづくりについて、多くの活動や協力・理解があつて進められていることはわかった。一職員として関わりのある分野だけでなく知っていきたいと思った。市民もこれらの活動を知るすべのない方も多と思うので、そこも進められたら良い。</p>

第2章 アンケート分析結果

アンケート分析結果

第1章の「各種アンケート内容」の分析の結果、次の6つの重点課題を抽出することができました。

1. 協働のまちづくりへの理解度
2. 多様なまちづくり活動への参加の入り口
3. 話し合い・出会いの場づくり
4. 知る機会・気づき・共感
5. 学びの場
6. つながり

1. 協働のまちづくりへの理解度について

「協働のまちづくりに関するアンケート調査」の結果、「協働のまちづくりについてどのくらい理解していますか。」という質問に対し、「言葉を聞いたことがあるが内容はよくわからない。」が34.9%、「言葉を聞いたことがないし、内容もわからない。」が22.9%であわせて57.8%の人が協働のまちづくりについて、理解が得られていない結果となりました。



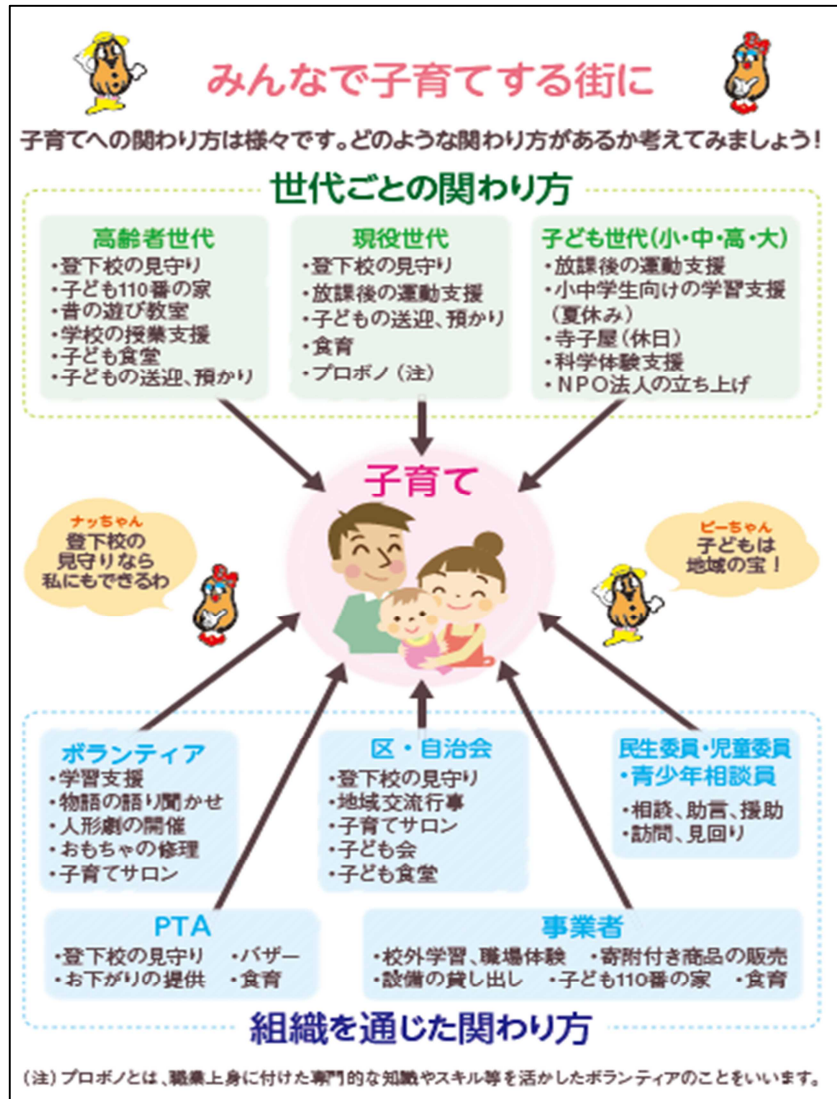
また、「誰もがくらしやすいまちづくりセミナー参加者アンケート」では、「くらしやすいまちづくりのためには、住民ひとり一人の意識が必要だと思います。」といった意見があったほか、「協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会」の参加者からは「担当業務においても少しずつ、市民団体の方と話し合う機会がありますが、どうしても行政がやるべきという話になってしまい、共助の理解が得られません。」といった意見があり、今後も継続して協働のまちづくりへの市民意識の向上が求められています。

一方、市職員の理解度については、令和元年度に全市職員を対象として、「協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会」を実施した結果、84.9%の参加者から協働のまちづくりについて理解が深まったとの回答が得られました。

このことから、市民、市民活動団体、事業者などの協働のまちづくりへの理解度を高めつつ、継続して市職員の資質・理解度の向上が求められます。

2. 多様なまちづくり活動への参加の入り口について

「協働のまちづくりに関するアンケート調査」において、「協働のまちづくりを推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。」という設問で、もっとも回答が多かった項目が「市政やまちづくりに参加しやすい仕組みづくり」で、回答割合が55.2%と回答者の約半数が選択しています。



「協働のまちづくりガイドブック」に掲載しているように、今後も「世代」や「組織」を通じて、様々なまちづくりへの参加の入り口があることを広く啓発していくことや、参加しやすい環境づくりが求められます。

3. 話し合い・出会いの場づくりについて

「協働のまちづくりに関するアンケート調査」において、「協働のまちづくりを推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。」という設問で、2番目に回答が多かった回答項目が「課題を共有できる仕組みづくり」で、回答者の54.6%が選択しています。

また、「令和元年度地域力向上スクール参加者アンケート」では、「ネットワークづくりは参加したい人が少なくてもやるべきです。担い手を継続的に養成していくべきです。」といった意見があったほか、「令和2年度地域力向上スクール参加者アンケート」では、「地域で活躍している人との交流会」を望む人が73.3%いました。

さらには、「誰もがぐらしやすいまちづくりセミナー参加者アンケート」においては、「人口減少、高齢化時代、コミュニケーションづくりを促進していきたい。」「地域の話合いの場を創る。ニーズをつかむ。」「話し合う場が良かった。初めての人と知ることができた。」「セミナー後に話し合いができたことは充実感がありました。」「時間に縛られないで討論がしたい。」といった意見がありました。

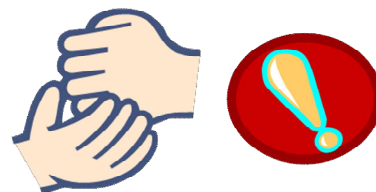
一方、市職員からも、「協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会参加者アンケート」において、「職員を積極的に情報共有の場に参加させてはどうか。」「協働を実施するにあたり、市職員が市民の側に出向くことが重要であると考えます。市民とのふれあい、対話する中で新しい発想、そして、相互理解が深まると思います。もっともっと市民との対話を大切にするよう促してください。」といった意見がありました。



このようなことから、市民、事業者、市職員など様々な立場の人が、対等な立場で地域の現状や課題、それぞれの活動について話し合い、現状や課題を共有できる機会を設けるとともに、互いの長所を活かして、地域課題の解決策・アイデアを考える場を数多くつくることが求められます。

4. 知る機会・気づき・共感

「誰もがくらしやすいまちづくりセミナー参加者アンケート」では、「面白かった。発表者がいきいきしていて、活動も楽しそうで参加してみたいと思った。いままで知らない活動（市内の地域活動）ばかりでした。知る機会があるのは大事ですね。」「市民参加とは、まずひとり一人の暮らしや願いを知ることからスタートせねば。」「今の現況はどのような社会環境になっているかを知ること（理論の武装）はとても大切だと思います。」といった意見があり、「令和元年度地域力向上スクール参加者アンケート」では、「グループワークをすると共感の場づくりになりました。」といった意見がありました。



また、「協働のまちづくりの基礎知識に関する職員研修会参加者アンケート」では、「地域自治活動やイベント等知らなかったことがたくさんあり、いろいろな活動やイベントを知るよい機会となりました。」「協働のまちづくりは漠然としか知らなかったので具体的な活動内容を知ることができて良かったと思う。できる範囲で、できることから少しずつはじめてみたいと感じた。」「協働のまちづくりについて、多くの活動や協力・理解があつて進められていることはわかった。一職員として関わりのある分野だけでなく知っていきたいと思った。市民もこれらの活動を知るすべのない方も多いと思うので、そこも進められたら良い。」といった意見がありました。

地域の課題・現状を知ることや、そういった課題に対してすでに行われているさまざまな市民活動を知ること、また、活かすことのできる地域資源を知るとは、以下のような効果が生まれます。

知る内容	知ることの影響	効果
現状、課題を知る	自分でもできることがあるかも？	まちづくりへの参加のきっかけ
さまざまな市民活動を知る	共感・賛同	新たな担い手の誕生
地域資源（ひと、モノ、お金、情報）を知る。	アイデアの創造 ひらめき	新たな解決策 ・この人と一緒に協力すればできるかも？ ・このモノが活用できるなら解決できるかも？

こうした知る機会を数多く設け、多くの人が現状や課題を共有し、さまざまな活動や活かせる資源を把握したうえで、まちづくりに取り組むことが求められます。

5. 学びの場

令和2年度地域力向上スクール参加者アンケートにおいて、今後、どのような内容であれば参加したいと思いますか。という設問で最も多い回答が、「地域の課題についての勉強会」で86.7%の選択率でした。

また、自由記述として「それぞれの課題（福祉、子育て、環境、防災）などについての勉強会を数多く行いたい。」といった意見があったほか、令和元年度のアンケートでも「八街市の活性化になるものをもっと掘り下げて勉強したいと思いました。」「地域活動を勉強したいと思います。」といった意見がありました。

こうした課題や現状を学ぶ機会を設けることも、継続していく必要があります。



6. つながり

「令和元年度地域力向上スクール参加者アンケート」では、「横のつながりについて何か情報があれば参考にしたい。」「誰もがくらしやすいまちづくりセミナー参加者アンケート」では、「横のつながりを早めにつくることは（幼少期からつくること）とても良いことだと思います。そのつながりはずっと続いていくし、その必要があります。地元でつながれたらもっと良いと思います。」「つながりづくりは地域の支える人材不足を地域に眠っている財産（人、知恵、情報、etc.・・・）を引き出すことか。」といった意見がありました。

横のつながりといっても下記のようなさまざまなつながりが考えられます。

世代間	子ども、現役世代、高齢者
異分野	子育て、高齢者支援、環境美化、防犯、防災、商工観光など
地域間	区・自治会、小学校区、中学校区、市町村単位など

こうした分類の垣根を超えて、横のつながりを創っていくことが、きめ細やかな地域の課題を解決するための糸口につながり、誰もがくらしやすい豊かなまちづくりを育むことにつながります。

